Gewandhauschor Osaka

大阪ゲヴァントハウス合唱団

第29回 定期演奏会

～遥かなる祈り～

2023年5月28日（日）

開演 14:00（開場 13:00）

Izumi Hall 住友生命いずみホール

ごあいさつ

本日は、大阪ゲヴァントハウス合唱団第 29 回定期演奏会にご来場いただき、まことにありがとうございます。

3 年を超える長いパンデミックでありましたが、その中で第 27 回から 3 回目の定期演奏会を本日迎えることができました。第 27 回こそ 3 度の演奏会延期を余儀なくされましたが、日本合唱連盟が策定した合唱活動における感染症拡大防止のガイドラインに基づいて練習活動を再開し、今日までほぼ通常の合唱活動を実践することができました。団員一同の音楽に対する情熱と造詣の深さを改めて実感しています。これもご来場いただいた皆様方のご支援、ご期待の賜物と熱く御礼申し上げます。

昨年の演奏会では「バロックの巨匠たち」というテーマでヴィヴァルディ、ヘンデル、バッハのバロック音楽を演奏しました。いずれも超難曲でアマチュア合唱団には無理だと言われている曲ばかりでしたが、萩原寛明先生の日頃の御指導と名指揮に加えて、気鋭のソリストの方々や大阪モーツァルトアンサンブルとの共演のお蔭で、いつもに勝るご好評をいただき多大な勇気を得ました。

本日はまず、16 世紀ルネッサンス時代後期イタリアのパレストリーナによるミサ曲に始まり、18 世紀バロック時代ドイツの、日本では音楽の父とも称されているバッハの教会音楽モテット、そして 19 世紀から 20 世紀をまたいでフランス近代音楽の基礎を開いたフォーレのレクイエムと続きます。

当団常任指揮者萩原寛明先生の指揮の下、世界に冠たる名オルガニスト冨田一樹氏ならびに名ソリストの方々をお迎えし共演させていただきます。

音楽は「国境を越え、時代を超える」と言われます。日本では戦国時代から明治大正時代に相当する 16 世紀から 20 世紀に至る欧州における合唱音楽による「遥かなる祈り」が皆様に届き心に響きますよう願いながら演奏します。どうぞ最後までごゆっくりとお楽しみください。

大阪ゲヴァントハウス合唱団
団長　村 上 孝 三

2022 年 7 月 3 日 第 28 回定期演奏会

プログラム

1st Stage

パレストリーナ／ミサ・ブレヴィス

G.P.da Palestrina: Missa Brevis

2nd Stage

バッハ／モテット「イエス、わが喜び」

J.S.Bach: Jesu, meine Freude, BWV 227

《 休　憩 》

3rd Stage

フォーレ／レクイエム

G.Fauré: Messe de Requiem, op.48

（冨田一樹編曲によるオルガン版）

指　　揮	萩 原　寛 明
ソプラノ	丸 山　晃 子
バリトン	増 本　　隆
オルガン	冨 田　一 樹

合　唱　大阪ゲヴァントハウス合唱団

出演者プロフィール

萩 原　寛 明 Hagiwara Hiroaki（指揮）

京都市立芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修了、ウィーン国立音楽大学卒業。声楽をヴァルター・ベリー、ヒルデ・ツァデクの各氏に師事。またウィーンでは、アーノルト・シェーンベルク合唱団に所属し、ヨーロッパ各地での演奏会や録音等に参加し合唱への造詣を深めた。帰国後は関西二期会に所属し、オペラの主要キャストや宗教曲、第九等のソリストとして多数出演するとともに、合唱の分野でも精力的に活動している。

現在、関西二期会、日本シューベルト協会、西宮音楽協会各会員。神戸女学院大学、京都教育大学各講師。混声合唱団Xsing、大阪男声合唱団、混声合唱団エヴァグリーン各指揮者。河内長野ラブリーホール合唱団指導者。大阪大学男声合唱団ボイストレーナー。

2017年10月より大阪ゲヴァントハウス合唱団常任指揮者。

冨 田　一 樹 Tomita Kazuki（オルガン・編曲）

大阪音楽大学オルガン専攻を最優秀賞を得て首席で卒業。同大学音楽専攻科オルガン専攻修了。ドイツ･リューベック音楽大学大学院オルガン科修士課程を最高得点で修了。オルガンをアルフィート･ガスト(聖ヤコビ教会オルガニスト)に師事。古楽をハンス･ユルゲン･シュノールに師事。

2016年7月、ドイツ・ライプツィヒ第20回バッハ国際コンクールのオルガン部門にて日本人初となる第一位と聴衆賞を受賞。8月、摂津市教育文化功労賞を受賞。12月、MBSドキュメンタリー番組「情熱大陸」に出演。

バロック音楽を得意とし、国内外で数多くの演奏会に出演。YouTubeにてパイプオルガンを紹介する活動も行う。(一社)日本オルガニスト協会会員。

丸 山　晃 子 Maruyama Akiko（ソプラノ）

京都市立芸術大学音楽学部声楽専攻を首席で卒業。音楽学部賞、京都音楽協会賞を受賞。同大学院音楽研究科修了。宗教曲のソリストを多く務めている。また合唱、声楽アンサンブルの経験も多い。現在、企画グループ One and Only メンバー、神戸市混声合唱団団員。

増 本　　隆 Masumoto Takashi（バリトン）

大阪芸術大学大学院修士課程修了。第24回京都芸術祭音楽部門毎日新聞社賞受賞。関西を中心に様々なオペラに出演。また、第九やメサイアなどのソリストを務める。故松本幸三、三原剛、松本薫平各氏に師事。関西生活音楽事務局、シアーミュージック各講師。

大阪ゲヴァントハウス合唱団 Gewandhauschor Osaka（合唱）

1982年、林達次により創設された。一足早く1977年に発足した京都ゲヴァントハウス合唱団と合同で「林達次オラトリオシリーズ」演奏会などを続ける一方、単独の定期演奏会を開催してきた。

2003年に林が他界した後は、2005年に波多野均を常任指揮者に迎え、国内外でより多彩な活動を展開し、ドイツのカメラータ・ヴォカーレ・ベルリンとは2002年から2015年まで計9回の合同演奏会を関西とベルリンで開催した。

2017年10月に萩原寛明を常任指揮者に招き、以後第25回から第27回までの定期演奏会では冨田一樹氏のパイプオルガンとともに、メンデルスゾーン「エリア」、ラインベルガー「レクイエム　ニ短調」、木下牧子「光はここに」、ブラームス「ドイツ・レクイエム」の演奏を行ってきた（他にはアカペラで、ルネサンス後期からバロックにかけてのポリフォニー宗教作品集、木下牧子「アカペラ・コーラス・セレクション」、ブラームス「二つのモテット」を演奏）。

このうちドイツ・レクイエムを取り上げた第27回定期演奏会はコロナ禍の影響を大きく受け、3度の延期を経て、入場制限のもと平日夜の開催を余儀なくされた。

第28回定期演奏会は「バロックの巨匠たち」と題してヴィヴァルディ、ヘンデル、バッハの合唱曲を大阪モーツァルトアンサンブルの管弦楽で演奏し、好評を博した。

合唱出演者

★重唱担当
※賛助出演

ソプラノ

生駒 三樹子	伊藤 京	岡村 郁子	鋤納 美佐子
瀬戸 あや子	谷田 雄子	寺本 浩子	★外山 有香
中務 七緒	仁田 優子	藤村 絵津子	★丸山 晃子
山田 裕子			

アルト

安橋 佳子	斎藤 久美子	佐野 恵子	★杉林 貴子
寺崎 真由美	中村 まち子	南出 真美	山田 孝子

テノール

★坂東 達也※	栗山 和郎	辻 光宏	原田 慎太郎
前川 雅司	山本 健司		

バス

★増本 隆※	内野 博之	澤瀉 久方	百々 隆
中田 誠	西田 卓史	服部 善次郎	藤井 謙悟
前川 洽治	村上 孝三		

外山 有香 Toyama Yuka（ソプラノ）

相愛大学音楽学部声楽学科卒業。同大学卒業演奏会、奈良県新人演奏会等に出演。バッハ「マニフィカト」、ヘンデル「ディクシット・ドミヌス」などの独唱・重唱を務める。大阪ゲヴァントハウス合唱団団員。

杉林 貴子 Sugibayashi Takako（アルト）

大阪信愛女学院短期大学卒業。ベートーヴェン「第九」、モーツァルト「戴冠ミサ」、メンデルスゾーン「パウルス」など主に宗教曲のアルトソロを務めるほか、後進の指導にも力をいれている。大阪ゲヴァントハウス合唱団団員。

坂東 達也 Bando Tatsuya（テノール）

東京藝術大学卒業、同大学院修了。MusikEngel合唱団、バッハコレギウムジャパン、アンサンブルフロット、タローシンガーズ各メンバー。神戸クルーザーコンチェルト専属アーティスト。

垣内 みどり Kakiuchi Midori（当団ピアニスト）

愛知県立芸術大学音楽部ピアノ科卒業。同大学院修了。京都・大阪でリサイタル開催。関西フィルハーモニー管弦楽団、アウアー弦楽四重奏団等と協演。声楽、合唱の伴奏を務める。現在、宝塚音楽学校講師。

生涯概観

作曲者のパレストリーナは、戸籍上の名前はジョバンニ・ピエルルイージで、当時の習慣で名前の後に付けていた出身地の名前パレストリーナで呼ばれています。パレストリーナというのは、ローマの東方、数十キロにある古い歴史のある町です。

パレストリーナが生まれたのは 1525 年頃ですが正確な誕生日は不明です。8 歳の頃からローマの少年聖歌隊養成学校で学んだ後、故郷の教会のオルガニストになります。この教区の司教がローマ教皇に選出されたことからローマに呼ばれ、ピエトロ大聖堂のジュリア聖歌隊に加わります。妻帯者ゆえに解雇されたこともありましたが、復帰した後 1594 年に亡くなるまで、ジュリア聖歌隊の隊長として活動し、多くの宗教曲も作曲しました。

作曲活動

15～16 世紀のイタリアは、ルネサンスの華やかな時代ですが、一方で 15 世紀後半から起こった宗教改革とそれに対するカトリック教会の改革運動が盛んな時期でもありました。教会音楽においても、華美あるいは通俗的な要素を排除し、多声音楽すらも禁止すべきとの議論がなされていました。

パレストリーナはこのような聖職者の意見にも配慮して、落ち着いた旋律、透明感のある和声などで特徴づけられ、後にパレストリーナ様式と呼ばれて、ポリフォニー音楽の模範となる様式を確立しました。その代表的な作品が「教皇マルチェルスのミサ」で、就任直後に当時の教会音楽に苦言を呈した教皇マルチェルスが、この作品を聴いて多声音楽に対する見方が変わったと言われるようになったものですが、教皇は在位期間も短く、この曲を聴いたという確証はなく、後世に語り継がれるうちに話が膨らんだもののようです。

「ミサ・ブレヴィス」

パレストリーナは生涯で約 100 曲のミサ曲を作曲しました。本日演奏します「ミサ・ブレヴィス」は正確な作曲時期は不明なものの、1570 年に出版されたミサ曲集に含まれていますので、若い時期の作品と考えられます。出版直後から評価が高く、この曲単独で幾度か再出版されました。「ブレヴィス」という名前の由来は諸説ありましたが、現在では、「短い」ミサ曲という理解が一般的です。

パレストリーナのミサ曲は 5 種類に大別できると言われていて、この曲は、何か原曲があるのでなく自由な発想で書かれた曲に分類されています。それでも、冒頭の旋律はグレゴリオ聖歌のクレドの旋律を取り入れており、他にも幾つかグレゴリオ聖歌の旋律を取り入れています。なお、このクレドの旋律は、200 年ほど後にバッハが「ミサ曲ロ短調」でも取り入れています。

言葉は、カトリックのミサ通常文にそっていますが、通常文は五つの部分で構成されるのに対し、音楽は、「サンクトゥス」と「ベネディクトゥス」が独立し、「アニュス・デイ」がⅠとⅡに分かれて、合計 7 曲構成となっています。合唱の編成は、4 部が基本ですが、「ベネディクトゥス」では 3 部合唱（本日は 3 重唱で演奏）、「アニュス・デイⅡ」では、ソプラノが分割されて 5 部合唱となっています。

曲の様式はポリフォニーを基本としながらも、「グローリア」、「クレド」では、要所でホモフォニー様式も取り入れて全声部のリズムが揃い、歌詞は聞き取りやすいものであるべきだという聖職者側の要求にも配慮しているようにも思われます。

この曲は、イオニア旋法と呼ばれる音階で書かれており、この音階は、現代の長調と同じ並びになっていますので、現代の我々が歌っても違和感がありません。もともとのイオニア旋法からは完全 4 度高く移調されて、現代で言えばヘ長調と同じ音階になっています。

生涯概観

ヨハン・セバスチャン・バッハは、1685 年にドイツ中部のアイゼナハで生まれました。音楽家の家系でしたが、9 歳の時に母親を、10 歳の時に父親を亡くし、14 歳年上の長兄に引き取られます。1700 年のリューネブルクを皮切りに、アルンシュタット、ミュールハウゼン、ヴァイマールでオルガニスト、1717 年にケーテンに移って宮廷楽団の楽長として活動します。その後、1723 年にライプツイッヒの聖トマス教会のカントールの地位につき、1750 年 7 月になくなるまで務めました。

就任後の数年間は、毎週新しいカンタータを作曲し、それを日曜日の礼拝で生徒たちに演奏させるという意欲的な活動を行いましたが、1730 年代中頃からは既存の曲の改作などでの対応が多くなります。晩年には、作曲活動の総決算をするかのような大作、「フーガの技法」、「ミサ曲ロ短調」を残しました。

バッハのモテット

ライプツィッヒの教会では、それぞれの主日の礼拝はカンタータが中心でした。このため、バッハの作品として伝わっているモテットは定例的な礼拝以外の行事のために書かれたもので、葬儀あるいは追悼式のための曲が多くなっています。葬儀や追悼式での曲が多い理由として、当時、ライプツィッヒ市民の葬儀の際は、かならず聖トマス教会の聖歌隊が参加することが求められていたことが挙げられています。経済的に余裕のある遺族は新たなモテットの作曲を依頼したようです。モテットは、演奏される場所の関係からも、オーケストラと一緒に演奏されることは無く、その分、合唱の占める役割が重くなります。しかし、無伴奏ではなく、通奏低音の他に各パートを楽器が重なって演奏したと見られています。

「イエス、わが喜び」

この曲はバッハの真作とされる曲の 1 曲です。自筆譜がないため、正確な作曲時期、目的は判りませんが、1735 年頃までには現在の形になっていたと推測され、原型はかなり早い時期に書かれていたとの見方もあります。

曲は、ヨハン・フランクの作詞、ヨハン・クリューガー作曲による 6 節からなるコラール〈「イエス、わが喜び」(Jesu, meine Freude)〉の各節の間に、新約聖書の「ローマ人への手紙」第 8 章の言葉を挟んだ 11 曲から構成され、第 6 曲を中心として対称になるように構成されています。このコラールは、現代の讃美歌集にも取り入れられ、「苦難と慰め」に分類されています。フランクは神学者ではないがゆえに、自由な発想で訴える力の強い詞が書けたのではないかと言われています。また、クリューガーはルター以降の最大の讃美歌作曲家と言われており、バッハの「マタイ受難曲」で 5 回歌われる「受難コラール」の作曲家でもあります。

「ローマ人への手紙」は、聖パウロがローマへの伝道旅行に先立って予めローマの教会に送った手紙で、パウロの「割礼や律法の順守によるのではなく、神に対する信仰によってのみ祝福される」という考え方を伝えようとしたものとされています。

このコラールと新約聖書による挿入句の組み合わせは、現世を突き放し否認する情感的なコラールと、肉によるのではなく霊によって救われるというやや理屈っぽい挿入句が対立しながら響き合い、最終的には、どのような困難、そして死が襲って来ても、イエスが私のもとに居て下さるから恐れることは無いという、熱烈なイエスへの愛に昇華していく内容となっています。

他のモテットの多くが 2 重合唱であるのに対し、この曲はソプラノが 2 部に分かれる 5 部合唱が基本とやや地味な構成なっていますが、コラールの扱い方、挿入されている曲のオルガン・フーガを彷彿させる対位法による展開など、バッハのモテットの代表作として高く評価されている曲です。

本日は、冨田一樹のオルガンとともに演奏いたします。

生涯概観

ガブリエル・ユルバン・フォーレは、1845年、教職の父親の下に生まれ、8歳で礼拝堂の楽長養成を目的とするニデルメイエール音楽学校に入学し、サン＝サーンス等の教えを受けました。20歳で卒業後、地方の教会を経てパリに移り、1874年にサン＝サーンスの後任のマドレーヌ寺院のオルガニストに就任し、1877年、同寺院の楽長となりました。

マドレーヌ寺院での職務を果たす傍ら、当時隆盛であったサロンでの活動や、国民音楽協会への参画、フィガロ紙で音楽批評なども行い、1905年にパリ音楽院の院長に就任し大胆な改革も進めました。さらに、独立音楽協会の会長にも就任し、国民音楽協会との融和に努めるなどした後、1924年肺炎のため死亡し、マドレーヌ寺院で葬儀が営まれました。

作曲活動

音楽学校在学時代から作曲を始めており、卒業時に初めて書いた4声部の合唱曲が今も良く歌われる「ラシーヌの雅歌」です。

その後の作曲活動の特徴は、歌曲、ピアノ曲、室内楽が中心で、合唱曲はそれほど多くありません。管弦楽作品も劇音楽が少しある程度です。長くマドレーヌ寺院のオルガニストの地位にありながら、礼拝用の合唱作品が少ないこと、オルガン作品は皆無であることが意外ですが、これはマドレーヌ寺院の聖職者が、新しい曲ではなく、既存の作品を粛々と演奏することを望んでいたためとも考えられます。このことは、フォーレ自身にとっても抑圧された思いがあったようで、そこから抜け出し、自らの死の捉え方の自由な表現が、「レクイエム」に結実したものと思われます。

「レクイエム」

この曲のまとまった形での演奏が父親死去の翌年であることから、作曲動機として結び付けられ勝ちですが、本人は否定していて、「言って良いなら興味から作曲した」と言っています。また、「死とは、恐怖感を抱くものではなく、苦しみと言うよりもむしろ永遠の至福と喜びに満ちた解放感にほかならない。永年画一的な葬儀のオルガン伴奏を続けてきたことに倦んで、何か別のことをしてみたかった。」とも述べています。このような言葉から推し量ると、自らの死に対する思いを表すのに相応しい言葉を、死者のためのミサおよび葬送のための典礼文から選定したと考えるのが判りやすいと思われます。

作曲経過は、マドレーヌ寺院着任間もない1877年にオルガン伴奏のバリトン独唱の「リベラ・メ」を作曲しており、この頃から自らのレクイエムを構想していた可能性があります。その後、1888年1月に、「イントロイトゥスとキリエ」、「サンクトゥス」、「ピエ・イエス」、「アニュス・デイ」、「イン・パラディズム」の5楽章で初演されました。この時のオーケストラは管楽器がなく、ヴァイオリンは独奏部のみで、低音系の弦楽器とオルガン中心の編成でした。

1889年頃から改作を始め、「オッフェルトワレ」と「リベラ・メ」を加えるとともに、出版の交渉も始めます。出版社が、管楽器、ヴァイオリンなどを加えた一般受けする楽器編成を望んだため時間がかかり、オーケストラ用の総譜、パート譜、ピアノ伴奏付きの合唱譜が、弟子たちの手も借りて、揃って出版されたのは19世紀末でした。この楽譜による初演が、1900年7月にパリ万国博覧会の行事の一つとして行われました。この追加されたオーケストレーションの評価は分かれていますが、本人は、ヴィオラを2パートとしたことで、これも2パートのチェロとの間でカルテットが構成されることを重要視し、一方、管楽器はすべてオルガンが重なっているのであまり重要ではないと友人に書いています。

曲全体としては、新様式の音楽にも関心を持って、和声法や転調に大胆なものを取り入れながらも、近代的な抒情性の濃い彼自身の音楽を創造していると評価されています。

本日は、冨田一樹編曲によるオルガン版により演奏します。　　【文：百々 隆】

Missa Brevis

1．Kyrie
Kyrie，eleison.
Christe，eleison.
Kyrie，eleison.

キリエ
主よ、慈しんでください。
キリストよ、慈しんでください。
主よ、慈しんでください。

2．Gloria
Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te. Benedicimus te.
Adoramus te. Glorificamus te.
Gratias agimus tibi
propter magnam gloliam tuam.
Domine Deus, Rex caelestis,
Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite, Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi,
miserere nobis
Qui tollis peccata mundi,
suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris,
miserere nobis.
Quoniam tu solus Sanctus.
Tu solus Dominus,
Tu solus Altissimus,
Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris.
Amen.

グローリア
天においては神に栄光が
地上では善意の人びとに平和が（あるように）。
私たちはあなたをたたえ、あなたを祝し、
あなたをおがみ、あなたをあがめます。
私たちはあなたに感謝を捧げます、
そのおおいなる栄光のゆえに。
神なる主、天の王、
全能の父なる神よ。
主なるひとり子イエス・キリストよ、
主なる神、神の小羊、父の御子よ。
世の罪を取りのぞかれる方よ、
私たちを慈しんでださい。
世の罪を取りのぞかれる方よ、
私たちの願いを聞きいれてください。
御父の右にすわっておられる方よ、
私たちを慈しんでください。
なぜならあなただけが聖なる方であり、
あなただけが主であり、
あなただけがすべてを超える方だからです、
イエス・キリストよ。
聖霊とともに父なる神の栄光のうちに。
アーメン

3．Credo
Credo in unum Deum,
Patrem omnipotentem,
factorem caeli et terrae,
visibilium omnium, et invisibilium.
Et in unum Dominum Jesum Christum,
Filium Dei unigenitum.
Et ex Patre natum ante omnia saecula.
Deum de Deo, lumen de lumine,
Deum verum de Deo vero,
Genitum, non factum,
consubstantialem Patri :
per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines,
et propter nostram salutem,
descendit de caelis.

クレド
私は信じます、唯一なる神、
全能の父、
天と地や、見えるものすべて
また見えないものの造り主を。
私は信じます、唯一の主、
イエス・キリスト、神のひとり子を。
すべてに先立って父から生まれた方を。
神からの神、光からの光、
まことの神からのまことの神を。
造られることなくお生まれになり
父と一体である方を。
万物はその方によってつくられたのです。
その方は私たち人間のため、
私たちを救うために
天から下って来られました。

Et in carnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria Virgine: et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis:
sub Pontio Pilato passus
et sepultus est.
Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.
Et ascendit in caelum:
sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est cum gloria
judicare vivos et mortuos:
cujus regni non erit finis.
Et in Spiritum Sanctum,
Dominum et vivificantem:
qui ex Patre Filioque procedit,
Qui cum Patre et Filio
simul adoratur, et conglorificatur:
qui locutus est per Prophetas.
Et unam sanctam, catholicam
et apostolicam Ecclesiam.
Confiteor unum baptisma
in remissionem peccatorum.
Et expecto resurrectionem mortuorum.
Et vitam venturi saeculi.
Amen.

そして聖霊により
おとめマリアから生まれ、人となられました。
私たちのために十字架にかけられ、
ポンシオ・ピラトのもとで苦しみを受け
葬られました。
聖書にあるように、三日目に復活されました、
そして、天に昇られ、
父の右に座っておられます。
また、栄光のうちにふたたび来られます、
生者と死者を裁くために。
その王国は終わることがありません。
私は信じます、主であり、命の与え主である
聖霊を。
父と子から出られたかたを。
聖霊は、父や子とおなじように
おがまれ、栄光を受け、
預言者をとおして語られました。
私は信じます、唯一にして、聖なる、普遍的な
使徒から継承された教会を。
私は認めます、
罪の許しをもたらす唯一の洗礼を。
また私は待ち望みます、死者の復活と
来世での命を。
アーメン。

4．Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus
Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt caeli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.

サンクトゥス

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
すべてを治める神なる主は。
天と地はあなたの栄光で満ちています。
天においては、神にホザンナ。

5．Benedictus

（ソプラノ、アルト、テノール三重唱と合唱）

Bedictus qui venit in nomine Domini.
Hosanna in excelsis.

ベネディクトゥス

主の名によって来られる方が賛美されますように。
天においては、神にホザンナ。

6．Agnus Dei Ⅰ

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
miserere nobis.

アニュス・デイ Ⅰ

神の小羊、世の罪を取りのぞかれる方よ、
私たちを慈しんでください。

7．Agnus Dei Ⅱ

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi:
dona nobis pacem.

アニュス・デイ Ⅱ

神の小羊、世の罪を取りのぞかれる方よ、
私たちに平安を与えてください。

Jesu, meine Freude

1．コラール第１節

Jesu, meine Freude, meines Herzens Weide,
Jesu, meine Zier,
ach wie lang, ach lange, ist dem Herzen bange
und verlangt nach dir!
Gottes Lamm, mein Bräutigam,
außer dir soll mir auf Erden
nichts sonst Liebers werden.

イエス、私の喜びよ、私の心の慰めよ、
イエス、私の誉れよ、
ああ、どれほど長く、なんと長く
心はおののき、あなたを求めていたでしょう！
神の子羊、私の花婿よ、
あなた以外には、私にはこの地上で
愛しい方はおられません。

2．ローマ人への手紙８・１

Es ist nun nichts Verdammliches an denen,
die in Christo Jesu sind,
die nicht nach dem Fleische wandeln,
sondern nach dem Geist.

いまや罪に定められることはありません、
イエス・キリストに結ばれている人々は。
その人々は肉によって歩むのではなく、
霊によって歩むのです。

3．コラール第２節

Unter deinem Schirmen bin ich vor den Stürmen
aller Feinde frei.
Laß den Satan wittern,
laß den Feind erbittern,
mir steht Jesus bei.
Ob es itzt gleich kracht und blitzt,
ob gleich Sünd und Hölle schrecken:
Jesus will mich decken.

あなたの庇護のもとで
私はあらゆる敵の嵐から自由でいられるのです。
サタンには吼えさせておきなさい、
敵には怒らせておきなさい、
私にはイエスが側についているのですから。
たとえ雷鳴が轟き、稲妻が光っても、
たとえ罪と地獄が脅かしても、
イエスが私をかくまって下さるのです。

4．ローマ人への手紙８・２　（ソプラノⅠ、Ⅱ、アルト三重唱）

Denn das Gesetz des Geistes,
der da lebendig macht in Christo Jesu,
hat mich frei gemacht
von dem Gesetz der Sünde und des Todes.

なぜなら、霊の法則、
それがイエス・キリストによって命を得て、
私を解放したのですから、
罪と死の法則から。

5．コラール第３節

Trotz dem alten Drachen,
Trotz des Todes Rachen,
Trotz der Furcht darzu!
Tobe, Welt, und springe,
ich steh hier und singe in gar sichrer Ruh.
Gottes Macht hält mich in acht;
Erd und Abgrund muß verstummen,
ob sie noch so brummen.

年老いた竜に逆らいなさい、
死の報復に逆らいなさい、
そして恐怖に逆らいなさい！
世界よ、荒れ狂い、はじけ飛べば良いのです！
私はここに立ち歌っています、安らぎの中で。
神の力が私を顧みるのですから、
大地と地獄は沈黙するしかないでしょう
たとえどんなにうなり声をあげていても。

6．ローマ人への手紙８・９

Ihr aber seid nicht fleischlich,
sondern geistlich,
so anders Gottes Geist in euch wohnet.
Wer aber Christi Geist nicht hat,
der ist nicht sein.

あなたたちは肉によって生きているのではなく、
霊によって生きています
神の霊があなたたちの中に住んでいるのなら。
キリストの霊を持たない者、
その人はキリストの僕ではありません。

７．コラール第４節

Weg mit allen Schätzen!
Du bist mein Ergötzen, Jesu, meine Lust!
Weg ihr eitlen Ehren,
ich mag euch nicht hören,
bleibt mir unbewußt!
Elend, Not, Kreuz, Schmach und Tod
soll mich, ob ich viel muß leiden,
nicht von Jesu scheiden.

あらゆる宝物よ、去りなさい！
あなたこそ私の喜びです、イエス、私の愉しみよ！
虚しい名誉は去りなさい、
私はおまえたちのことを聞きたくも
知りたくもありません！
不幸、苦しみ、十字架、恥辱、そして死、
どんなに私が苦しまなければならないとしても、
それらが私をイエスから引き離さないように。

８．ローマ人への手紙８・１０

（アルト、テノール、バス三重唱）

So aber Christus in euch ist,
so ist der Leib zwar tot um der Sünde willen;
der Geist aber ist das Leben um der Gerechtigkeit willen.

キリストがあなた方の中におられるなら、
たとえ肉体が罪のために死のうとも、
霊が義のために生きているのです。

９．コラール第５節

Gute Nacht, o Wesen, das die Welt erlesen,
mir gefällst du nicht.
Gute Nacht, ihr Sünden,
bleibet weit dahinten,
kommt nicht mehr ans Licht!
Gute Nacht, du Stolz und Pracht!
Dir sei ganz, du Lasterleben,
Gute Nacht gegeben.

さらば、世が選び出したものよ、
おまえが私を喜ばせることはありません。
さらば、数々の罪よ、
はるか後方に留まって
もう光のもとに出てきてはいけません！
さらば、虚栄と虚飾よ！
悪習に満ちた生よ、おまえとは、
金輪際さらばです。

１０．ローマ人への手紙８・１１

So nun der Geist des,
der Jesum von den Toten auferwecket hat,
in euch wohnet,
so wird auch derselbige,
der Christum von den Toten auferwecket hat,
eure sterbliche Leiber lebendig machen

um des willen, daß sein Geist in euch wohnet.

いま、イエスを死から甦らせたその霊が、
あなたたちの中に住んでいるなら、

それと同様に
キリストを死から甦らせた方が、
あなたたちの死すべき肉体に生命を与えられるでしょう、
そのために霊はあなたたちの中に住むのです。

１１．コラール第６節

Weicht, ihr Trauergeister,
denn mein Freudenmeister,
Jesus, tritt herein.
Denen, die Gott lieben,
muss auch ihr Betrüben
lauter Zucker sein.
Duld ich schon hier Spott und Hohn,
dennoch bleibst du auch im Leide,
Jesu, meine Freude.

退きなさい、悲しみの霊よ、
なぜなら、私の喜びの主、
イエスがここに入って来られるのですから。
神を愛する人にとっては、
おまえたちの悲しみも
ただ甘いものとなるに違いないのです。
私はいまや嘲りや侮辱に耐え忍んでいます、
それでもなお、あなたは苦悩の中でも絶えることなく、イエスよ、私の喜びであり続けます。

Messe de Requiem

1．Introït et Kyrie

Requiem aeternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis.
Te decet hymnus Deus in Sion,
et tibi reddetur votum in Jerusalem:
exaudi orationem meam,
ad te omnis caro veniet.
Kyrie, eleison.
Christe, eleison.
Kyrie, eleison.

イントロイトゥスとキリエ

永遠の安息を彼らに与えてください、主よ。
絶えざる光が彼らを照らしますように。
神よ、シオンでは賛歌があなたにふさわしく
エルサレムではあなたへの誓いが果たされます
私の祈りをお聞きください、
肉なる者はみなあなたのもとに来ます。
主よ、慈しんでください。
キリストよ、慈しんでください。
主よ、慈しんでください。

2．Offertoire

O Domine Jesu Christe, Rex gloriae,
libera animas defunctorum de poenis inferni,
et de profundo lacu:
O Domine Jesu Christe, Rex gloriae,
libera animas defunctorum de ore leonis,

ne absorbeat tartarus,
O Domine Jesu Christe, Rex gloriae,
ne cadant in obscurum:
Hostias et preces tibi, Domine,
laudis offerimus:
tu suscipe pro animabus illis,
quarum hodie memoriam facimus:
fac eas, Domine, de morte transire ad vitam.
Quam olim Abrahae promisisti,
et semini ejus.
O Domine Jesu Christe, Rex gloriae,
libera animas defunctorum
de poenis inferni, et de profundo lacu:
ne cadant in obscurum:
Amen.

オッフェルトリウム （バリトン独唱と合唱）

主イエス・キリストよ、栄光の主よ、
死せる信者すべての魂を、地獄の罰と深い淵から
解き放ってください。
主イエス・キリストよ、栄光の主よ、
死せる信者すべての魂を、獅子の口から解き放って
ください。
冥府に飲み込まれることなく、
主イエス・キリストよ、栄光の主よ、
闇に陥ることのないように。
賛美のいけにえと祈りを、主よ、
われらはあなたに捧げます。
きょう、われらが記念する
この魂たちのためにそれらを受け入れ
主よ、魂たちを死から生へとお移しください。
かつてアブラハムとその子孫に、
あなたが約束されたように。
主イエス・キリストよ、栄光の主よ、
死せる信者すべての魂を解き放ちください。
地獄の罰と深い淵から、
闇に陥ることのないように。
アーメン。

3．Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus
Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt caeli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.

サンクトゥス

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな
万軍の神なる主は。
天と地はあなたの栄光で満ちています。
天においては、神にホザンナ。

4．Pie Jesu

Pie Jesu Domine,
dona eis requiem;
Dona eis, Domine
dona eis requiem
sempiternam requiem.
Pie Jesu Domine,
dona eis sempiternam requiem.

ピエ・イエス （ソプラノ独唱）

情けふかい主イエスよ、
彼らに安息を与えてください。
彼らに与えてください、主よ、
彼らに安息を与えてください、
永遠の安息を。
情けふかい主よ、
彼らに永遠の安息を与えてください。

5．Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi,
dona eis requiem, sempiternam requiem.
Lux aeterna luceat eis, Domine:
Cum sanctis tuis in aeternum,
quia pius es.
Requiem aeternam dona eis, Domine,
et lux perpetua luceat eis.

アニュス・デイ

神の小羊、世の罪を取り除かれる方よ、
彼らに安息を与えてください。
神の小羊、世の罪を取り除かれる方よ、
彼らに安息を与えてください、永遠の安息を。
永遠の光が彼らを照らしますように、主よ。
あなたの聖人たちとともに、永遠に。
あなたは情けふかい方ですから。
永遠の安息を彼らに与えてください、主よ。
絶えざる光が彼らを照らしますように。

6．Libera me

Libera me, Domine, de morte aeterna,
in die illa tremenda;
Quando coeli movendi sunt et terra:
Dum veneris judicare seculum per ignem.
Tremens factus sum ego, et timeo,
dum discussio venerit, atque ventura ira.
Dies illa, dies irae,
calamitatis et miseriae,
dies illa, dies magna, et amara valde.
Requiem aeternam dona eis, Domine:
et lux perpetua luceat eis.
Libera me, Domine, de morte aeterna,
in die illa tremenda:
Quando coeli movendi sunt et terra.
Dum veneris judicare seculum per ignem.
Libera me, Domine, de morte aeterna,
Libera me, Domine.

リベラ・メ　（バリトン独唱と合唱）

私を解き放ってください、主よ、永遠の死から、
あの恐るべき日に。
天と地が揺れ動くとき、
火により世を裁くためあなたが来られる時に。
私は震えおののいています、
裁きと来たるべき怒りが来るのですから。
その日こそ怒りの日、
災いとの苦悩の日、
まことに辛いおおいなる日。
永遠の安息を彼らに与えてください、主よ。
絶えざる光が彼らを照らしますように。
私を解き放ってください、主よ、永遠の死から、
あの恐るべき日に。
天と地が揺れ動くときに。
火により世を裁くためあなたが来られる時に。
私を解き放ってください、主よ、永遠の死から、
私を解き放ってください。

7．In Paradisum

In Paradisum deducant Angeli:
In tuo adventu suscipiant te Martyres,
et perducant te in civitatem sanctam Jerusalem.
Chorus Angelorum te suscipiat,
et cum Lazaro quondam paupere
aeternam habeas requiem.

イン・パラディズム

天使たちがあなたを楽園へ導きますように。
そこに着くと、殉教者たちがあなたを迎え
あなたを導きますように、聖なる都イェルサレムへと。
天使の群れがあなたを迎え、
かつて貧しかったラザロとともに
あなたが永遠の安息を得られますように。

【訳：大阪ゲヴァントハウス合唱団】

団 員 募 集！

合唱が好きで、年間を通じて練習に参加いただける方であれば、どなたでも入団いただけます。次回の演奏会に向けて皆で新しい曲の練習に取り組む今が入団のチャンスです。まずはお気軽に見学にお越しください。

大阪ゲヴァントハウス合唱団
第30回記念定期演奏会

2024 年 6 月(予定)、住友生命いずみホール

W.A.モーツァルト
ミサ曲 ハ短調 K.427、ヴェスペレ ハ長調 K.339

管弦楽 ： 大阪モーツァルトアンサンブル

定期練習 ： 毎週木曜日 18:30~21:00
練習会場 ： 大阪市中央区 大阪産業創造館 15 階

入団希望・見学希望・お問合せ